

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

What's new!

第8回環境経営度調査(日本経済新聞社主催)通信サービス部門において、8位にランキングしました。

1



トップメッセージ

2



長期環境ビジョン

3



エコな社員をご紹介!
エコ社員インタビュー

NTTコミュニケーションズ 地球環境憲章

環境保護活動 ▶

環境マネジメント ▶

NTTグループとの関わり ▶

対象範囲、編集方針



地球環境保護活動
2003はこちら→



NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

[トップページ](#)

トップメッセージ

NTTコミュニケーションズは、
世界の人々の対話をサポートすることによって
心豊かで持続的な社会の実現に貢献します。



代表取締役社長 鈴木 正誠

NTTコミュニケーションズは、人々が、言葉を通じて、さらに顔と顔を合わせていきいきとコミュニケーションできる社会を作ることによって貢献できる会社であると信じています。

私たちは、対話を重ねることによって相手を理解し、いたわる心に転じる不思議さを知っています。コミュニケーションには人と人を和ませ、融和させる力があります。

現在、人類とその乗船である地球は、このままでは維持できない状態にあります。環境面では、地球的な気候変動と大規模な環境破壊が進み、社会面では、人口爆発、南北の貧富の格差、飢餓、疫病が広がっています。

これらをどこかの時点でくい止め、進む方向を転換しなければ、人類の永続は不可能ではないか、と考えるのは私だけではないと思います。これらの諸問題は、皆、国家と国家、国家と人民、企業と市民といった相対する人々の理解不足によって起こっている問題であるように思われます。

当社では、「グローバルIPソリューションカンパニー」という事業ビジョンを掲げ、「ソリューション」「ネットワークマネジメント(ユビキタス)」「セキュリティ」そして「グローバル」の4つの分野へ事業を展開しています。

私たちは、これらの事業を通じて、世界中の人々が理解しあい、それによって社会の進む方向が転換し、心豊かで持続的な社会が実現していくことに、少しでも貢献したいと考えます。

2004年11月

[地球環境保護活動2004トップ](#)

[このページのトップ](#)

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

トップページ▶

エコな社員をご紹介します！

エコ社員インタビュー

“子どもたちの未来を守りたい”

環境保護推進室 有村 園子



contents

教育実習で子どもたちが未来に不安を抱いていることを知る

「子どもたちの未来を守りたい」。その強い思いが、環境保護推進室・有村園子の仕事に対する原動力だ。有村は現在入社して2年目。Com入社と同時に同室に配属になった。現在は、環境法の施行・改正のチェックと社内への周知、環境報告書や社内報、環境HP等を通じた社内外への環境情報の発信、社内で産業廃棄物の処理手続きが適正に行われていることを確認する等の「環境セルフチェック」を担当している。

子どもが大好きで教育学科に在籍していた有村は、教育実習の際に衝撃を受ける。美しい自然の写真を見たある子どもが、「きれいだね。でもいつかなくなっちゃうんだよ」と言った。子どもたちは授業などを通して環境問題の深刻さを知り、未来に対して漠然とした不安を抱いていたのだ。有村は大学卒業後、教壇に立つことも考えたが、企業の環境に関わるという間接的でありながら「子どもの未来を確実に守っていく」仕事を選んだ。



多くの社員の助けを借りて環境のプロに

環境保護推進室に配属が決まった時は、それまで環境に対して特に関心を持っていたわけではなかったため、期待と不安が入り混じった気持ちだった。しかし、「子どもたちの不安を取り除くことにつながる仕事ができるのは嬉しかった」と有村は振り返る。



仕事は楽しい。特に昨年(2003年)、自社ホームページの環境保護活動のコーナーをリニューアルした際は、社内から「おもしろかった」「わかりやすかった」など多くの反響があり、わざわざ「読みましたよ」と伝えにきてくれる社員もいた。これまでの中で一番やりがいを感じた仕事だった。

しかし、楽しいと思えるようになるまでは苦勞も尽きなかった。特に配属当初は、環境の専門用語も知らなければ、社内の環境マネジメントの仕組みもわからなかった。とにかく環境用語に慣れようと、本や資料を読みあさったり、法律を自分の言葉に置き換えて理解に努めるなど、コツコツと勉強した。知識を深めるため、ISO14001の

内部監査員の資格も取得した。他部署には、廃棄物処理などに長年携わってきた専門知識の豊富な社員もいる。彼らにも多くを教わった。「最初は全くの素人だった自分がここまでやってこられたのは、さまざまな人の助けがあったから」と有村は話す。

車は使わない、マイカップを利用する—日常生活もエコ改革

環境保護推進室に配属になってから、日常生活でも自然と環境を考えるようになった。たとえば、車に乗らなくなった。以前から箱根や清里、軽井沢など自然の中へ出かけるのが好きだったが、車で行くことが多かった。しかし今は電車を使って行く。どうしても必要な時は現地でレンタカーを借りるようにしている。電車利用には意外な効用もあった。駅ごとに街並みが変わっていく様子は新鮮だし、旅の途中で人と交流する機会もできた。現地の人しか知らない口コミ情報を得たり、思いがけない出会いに恵まれることもある。



軽井沢の自然の中で、パチリ！

勤務中も、「さりげないエコ」を実践している。そのひとつが、マイカップの利用だ。コーヒー店では、容器を持参すると、そこに飲み物を入れてもらえる。使い捨てカップの使用量を減らせる上、割引になるのでお財布にもやさしく一石二鳥というわけだ。マイカップは、いつの間にか環境保護推進室の他のメンバーに広がり、今ではメンバー全員がマイカップを持参しているという。

そんな有村が、環境保護推進室に配属になった時から考えていることがある。全従業員を対象とした環境教育の導入だ。具体的な内容はまだ検討中だが、社内のいろいろな人から意見をもらい、作り上げていきたいと考えている。「ITが環境負荷改善に果たせる役割は大きい。全ての従業員が環境マインドを持ち、意識しなくても環境に配慮したサービスを提供できるようになるのが理想」と有村は話す。子どもたちの、未来を守る—。そのためにできることを有村は、仕事を通して、生活を通して、一つひとつ着実に実行している。

古いものを大切に使う—趣味はアンティークの食器収集

有村園子の趣味は、米国で1940年代から70年代にかけて製造された耐熱ガラス製の食器、「ファイヤーキング」や「オールドパイレックス」の収集だ。ガラスの美しさにはまってしまい、3年前に収集を始めた。特にコーヒーを入れた時の透け具合が陶器にはない魅力だという。「新しい食器を買わずに、あえてアンティーク品を使うことで、少しは環境に貢献できているかも」と有村は笑う。



NTTコミュニケーションズ 地球環境憲章

基本理念

NTTコミュニケーションズは、グローバルな規模であらゆるお客様の利益につながる最高水準のサービスを創造し、提供する全ての過程において、地球環境保全に積極的に取り組むとともに、環境にやさしい社会の実現に貢献します。

基本方針

全ての企業活動において、次の方針を基本とする。

- 1 企業責任の遂行**
環境保全に関する国内外の法規制を遵守することはもとより、事業活動によって環境に与える影響を評価し、環境汚染の未然防止に努めるとともに省エネ、省資源、廃棄物削減等に目標を設定し継続的改善に努めます。
- 2 環境にやさしい社会実現に向けた活動の支援**
環境保全やリサイクル関連の情報流通プラットフォームやテレワーク等の新しいライフスタイルを可能とするネットワークサービスを開発・提供することで、人と地球にやさしい低環境負荷社会の実現に貢献します。
- 3 社会活動を通しての貢献**
地域住民、行政等と連携して、日常的な環境保護活動の支援に努めます。
- 4 環境情報の公開**
環境関連情報を公開し、社内外とのコミュニケーションを図ります。

*上記の基本方針は、NTTグループの基本方針に基づき策定しています。

編集方針・対象範囲

- NTTコミュニケーションズは、IT技術を活用し、快適な社会実現に貢献すると共に、環境保護に向けた取り組みを行っています。
- 本年度は、昨年度から公開した環境報告書の2004年版を報告すると共に、2025年のIT社会像を想像し、企業としての役割を明確にするため、長期環境ビジョンを策定しました。策定にあたり、社内でワークショップを開き、多方面な部署からの意見交換を行い、NTTコミュニケーションズとしてのビジョンを打ち出しました。
- 従来環境報告書は印刷によるものが主流でしたが、紙資源節約のため、当社はホームページ上で環境報告書を公開していきます。ホームページの特長を生かした、報告書作りをめざします。
- 本報告書は、環境省の「環境報告書ガイドライン」とGRI(Global Report Initiative)のガイドラインを参考に作成した「NTTグループ会社環境報告書作成ガイドライン」(グループ会社内で開示)に基づいています。

対象範囲	NTTコミュニケーションズのグループ会社は国内外合わせて48社ありますが、各事業所の規模が小さいため、本社の活動のみを報告しています。
対象期間	2003年4月1日～2004年3月31日 ※一部2004年7月までの事項を含む
対象分野	環境保全、環境経営に関して掲載しています。

2004年9月末日
NTTコミュニケーションズ
環境保護推進室

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

[トップページ](#)

環境保護活動

INPUT - OUTPUT

2003年度における物質とエネルギー量の投入と排出をご紹介します。



contents

・自動車から	411t	437t
・重油から	2千t	2千t
NOx(総排出量)	238t	237t
・電力から	236t	235t
・ガスから	0.98t	0.85t
・重油から	1.2t	1.2t
SOx(総排出量)	197t	196t
・電力から	195t	195t
・重油から	1.4t	1t
水	45.3万m ³ (*)	45.7万m ³ (*)
廃棄物(総排出量)	7,049t	9,001t
・リサイクル量	1,620t	5,459t
・有価重量	1,895t	2,805t
・最終処分量	3,534t	737t

(*)上下水使用量は分計していません。

[地球環境保護活動2004トップ](#)

[このページのトップ](#)

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

[トップページ](#)

環境保護活動 省エネルギー



contents

当社は、通信サービスを安定して提供するため、24時間絶え間なく電力を使っています。その結果、多量の二酸化炭素(CO₂)を排出しています。グループ全体のCO₂排出量は1990年には169万t-CO₂でしたが、2010年には371万t-CO₂以上と大幅に増加する見込みです。これは、情報通信のブロードバンド化の進展と、いつでもどこでもネットワークに接続できるユビキタス・ネットワーク社会の到来により、電力使用量が増えるためです。

当社では「2010年に向けた電力消費量削減ビジョン」を策定。2010年までに電力使用量を1990年以下にすることを定めています。これにもとづき、温室効果ガス削減委員会やグループ地球環境保護推進委員会のエネルギーマネジメント部会を中心に、エネルギー管理の徹底やTPR(トータルパワー改革)運動などの取り組みを進めています。

2003年度のNTTコミュニケーションズ・通信ビルの電力使用量は、ハウジングサービスによるお客様の電力使用量も含めて7.8億kWh、CO₂排出量は30.8万t-CO₂でした。今後、同ビルの1990年のCO₂排出量(24.53万t-CO₂)を目標に、削減に努めていきます。

[地球環境保護活動2004トップ](#)

[このページのトップ](#)

環境保護活動 > 省エネルギー
直流の通信機器導入



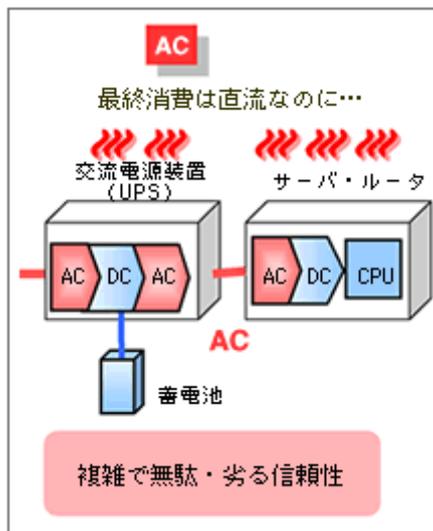
contents

ブロードバンド化の進展やユビキタス社会の到来により、社会から求められる情報処理容量が拡大しています。当社では、通信設備に関し、通信サービスを安定して提供するために情報処理容量を大きくするものはもちろんのこと、地球環境と共存するためにも消費電力の少ない通信装置へと設備の移行を進めています。

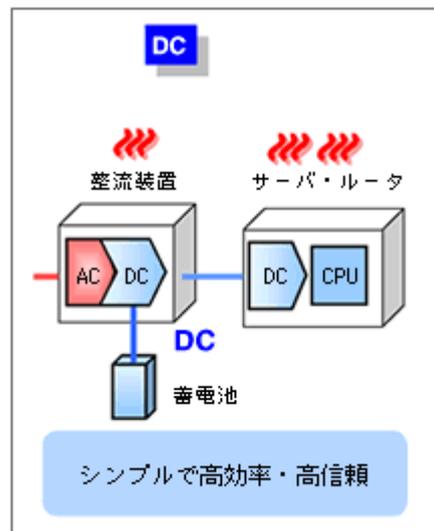
当社では、近年、サーバ・ルータ系設備の直流化を進めています。これまでは、電力会社から購入した交流電力を無停電電源装置に通して、サーバ・ルータなどの通信装置に使ってきました。サーバ・ルータ系設備の入力を交流から直流にすることで、システム全体の効率を高め、通信サービスを安定供給していきます。

その一環として、当社の通信ビル内にお客様の通信設備をお預かりするハウジングサービスにおいても、お客様に直流機器の導入の提案を行っています。現状では直流で稼働するサーバ・ルータの種類が少なく、結果、製品コストが高いのが障壁ですが、ランニングコストが削減できることによってトータルコストが下がることと、それが通信の安定化につながることを理解いただくよう努めています。

交流システム



直流システム



環境保護活動 > 省エネルギー

コージェネレーションの取り組み

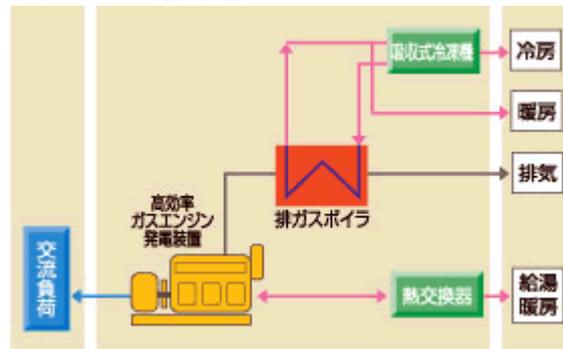
contents

当社では、現在、大阪と岡山の2ビルでコージェネレーションシステム*を導入しています。両ビルでは2システム(5基のエンジン)を稼働させ、社内用電力として使用しています。特に大阪のシステムは、自治体の排ガス条例に適應した都市ガスの発電装置を使用しており、通信ビルで使用する電力の大部分を賅っています。今後は、より環境負荷が少ないとされる燃料電池を使ったコージェネレーションシステムの導入を検討していきます。

さらなる検討事項としては、社会全体の電力需要量とのバランスを考えることです。電力供給に余裕のある夜間に充電し、電気の使用量がピークになる昼間は蓄電池で稼働する電力蓄蔵方式の導入を考えています。同方式は、停電時のためのバックアップ電源を兼ねており、万が一の災害時にも影響を受けにくいという利点があります。

*コージェネレーションシステムとは、燃料を用いて発電するとともに、その排熱を熱源として暖房や給湯などにも利用するシステム。省エネルギー効果が高いのが特徴。

コージェネレーションシステムの説明図



(出展:NTTファシリティーズ コージェネレーションシステム)

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

[トップページ](#)

環境保護活動

廃棄物削減・リサイクルの促進

NTTグループ全体の廃棄物の最終処分量を2010年度に0.5万t以下にするという目標を定め、事業活動から生じる廃棄物の削減とリサイクルに取り組んでいます。社内の専門家集団からなるワーキンググループが中心となり、NTTグループ各社のメンバーが参加する「廃棄物処理・リサイクル委員会」と連携しながら進めています。廃棄物関連のワーキンググループには「撤去通信設備WG」、「建設廃棄物WG」、「PCB保管・処理WG」、「オフィス廃棄物WG」、「お客様廃棄物WG」の5つがあります。

2000年度からは、全事業部を対象に「環境セルフチェック」を定期的実施。廃棄物処理法で定められた産業廃棄物管理票（マニフェスト）を正しく交付し、規定の期間内に行政への報告を行っているかを確認しています。

また、通信設備のリサイクル・リユースにも積極的に取り組んでいます。たとえば、撤去した通信設備を保管し、ケーブルやパッケージ類など、まだ使える部品は別の現場で再使用しています。余剰在庫物品については、イントラネット上のプロキユアメント統括室（旧 資材部門）のホームページに掲載し、情報共有を図っています。さらに、「NTTアクセスサービス研究所」が開発した廃光ケーブルリサイクルシステムの導入などにより、光ケーブルのリサイクルも積極的に行っています。

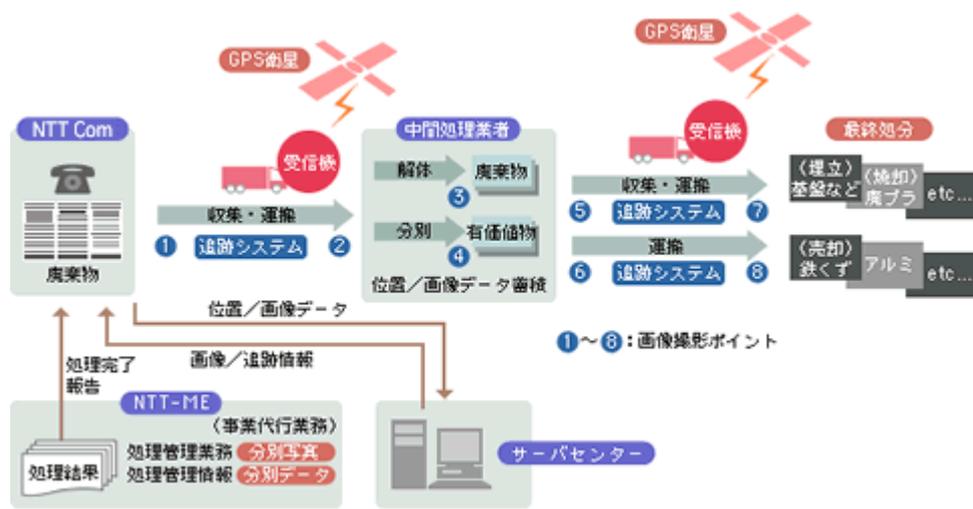
廃棄物処理過程監視システム

廃棄物処理については、産業廃棄物処理業者の選定時に適切なチェックを行っています。また、最終処分段階まで適正に処理が行われていることを確認するため、2001年度からNTT-MEの廃棄物処理過程監視システムを利用しています。

この監視システムは、廃棄物の収集、運搬を行う車両に受信機を搭載し、GPS（衛星を使った位置測定システム）と画像情報により、収集運搬車両の走行状況を確認するものです。正規の処理ルートを外れることなく運搬しているかどうかなどをインターネットで確認できます。

解体、分別、最終処分場への持ち込みなどの各過程も画像情報とあわせて確認できるため、排出者として、よりいっそう責任のある対応ができるようになりました。

GPSを利用した廃棄物管理システム



[地球環境保護活動2004トップ](#)

[このページのトップ](#)

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

[トップページ](#)

環境保護活動 > 廃棄物削減・リサイクルの促進
撤去通信設備

contents

撤去通信設備のリサイクル

通信サービスを向上するためには、設備を適宜、交換、統合する必要があります。当社は、交換などにより不要となった通信設備のリサイクルに取り組んでいます。リサイクルできないものについては廃棄量を正確に集計して徹底した管理を行い、適正に処理しています。

2003年度に交換、統合により不要となった通信設備は約2,846tで、このうち約97%をリサイクルしました。リサイクル率は前年度の約93%から4%増えました。これは、従来はリサイクルできなかった蓄電池などの設備がリサイクルできるようになったからです。今後も、グループ各社と連携し、さらなるリサイクル率の向上に取り組んでいきます。

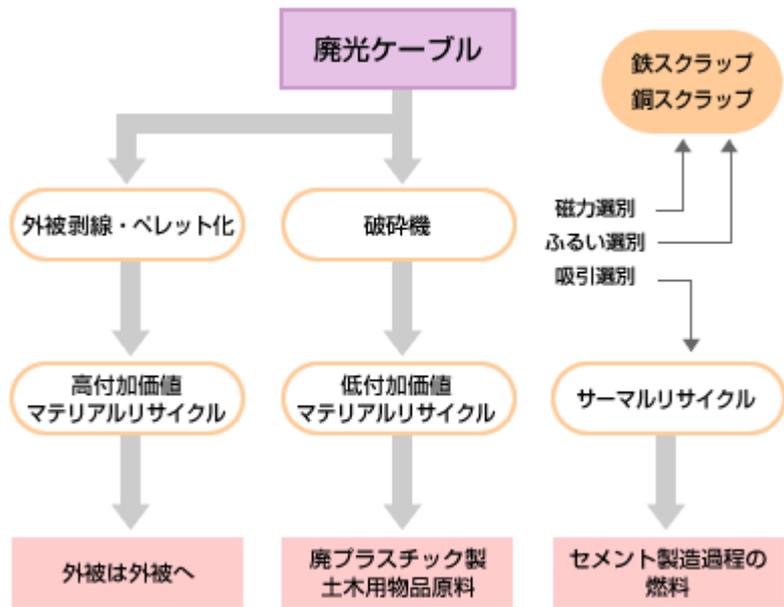
(単位:t)

年度	総排出量	有価重量	リサイクル重量	最終処分量	リサイクル率
2002	2,883	1,895	777	211	92.7%
2003	2,847	1,585	1,171	90	96.8%

使用済み光ケーブルのリサイクル

1994年に使用済み光ケーブルのリサイクルへの取り組みを開始しました。ケーブルの外被は、再び光ケーブルの素材として使用しています。さまざまな素材で構成されるためリサイクルが難しかったコア部分についても、2001年にリサイクル技術を確立。解体、破碎して分別し、鉄や銅などは再び資源として使い、プラスチックの一部は土木資材に利用。それ以外は焼却して熱を回収し、セメント製造工程でエネルギー源として活用しています。

廃光ケーブルリサイクルの流れ



※ 再生材料の混合率を50%以下

※ ハンドポール、電線共同講用フリーアクセス管の防護台等

[地球環境保護活動2004トップ](#)

[このページのトップ](#)

環境保護活動 > 廃棄物削減・リサイクルの促進
建設廃棄物

contents

通信技術の進展にともない使命を終えた建築物について、取り壊す際に発生する廃棄物のリサイクルに取り組んでいます。

建築廃棄物の排出量は、2002年度は10,256tでしたが、2003年度は3,627tと大幅に減りました。これは、2002年度に神戸港ビルの撤去工事を行ったため、同年度の排出量が一次的に増えたからです。排出量は2002年度より減りましたが、2001年度の2,383tに比べると増加しています。これは、長崎万才ビルや大阪堂島ビルなどの大規模模様替え工事が発生したことによるものです。また、建築廃棄物のリサイクル率は、2002年度には94%でしたが、2003年度は大規模撤去工事が無く、模様替え工事が主要な撤去工事となったため、89.2%に下がりました。

今後は、2005年に建築リサイクル法の対象となる特定資材のリサイクル率を98%、その他の廃棄物のリサイクル率を62%にするという目標を掲げ、さらに取り組を進めていきます。具体的には、廃棄物の処理を委託する際に、工事仕様書などでリサイクル率の提示を求める仕組みを導入したり、リサイクル率の高い処理業者への委託を推進する計画です。

	建築廃棄物(t)					
	発生量	直接再利用量		中間処理	最終処分量	再資源化率(%)
		現場内	現場外			
2003年度	3,627	0	139	3,327	391	89.2
2002年度	10,256	7,691	221	461	611	94

環境保護活動 > 廃棄物削減・リサイクルの促進

オフィス廃棄物

contents

当社はオフィスで事業活動を行うときも、環境負荷を削減する努力を行っています。具体的には、オフィスで発生する廃棄物の削減・リサイクルと、コピー用紙の使用量削減、再生紙への切り替えなどです。2003年度のオフィスからの廃棄物の量とコピー用紙の使用実績は次の通りです。

廃棄物の総排出量は6.101トンと、前年度より増加しました。総排出量は増えましたが、リサイクル率は43%と、前年度の19%から大きく向上しました。

コピー用紙については、100%再生紙の使用量が前年度の約34%から約60%へと大幅に向上。これに伴い、紙使用量全体に占める純正パルプの使用量が、前年度の約20%から約13%に低下しました。

2004年度も、ごみの分別徹底とリサイクルの推進に積極的に取り組むほか、コピー用紙の使用量削減、再生紙使用率向上の方法を検討していきます。

	項目	上質紙	100%再生紙	70%再生紙	合計
2003	Com総使用枚数(万) (A4換算)	182	8,486	5,697	14,365
	総使用量(kg換算)	7,288	339,469	227,882	574,639
	総使用量に占める 用紙種類別使用比率(%)	1.27	59.08	39.65	100
	純正パルプ使用量(kg)	7,288	0	68,364	75,652 (使用割合13.17%)

2003年度の事務用紙の使用量を2002年度と比較すると、増加しました。これは、年々正確なデータ把握が可能になったため、数値が以前よりも増加し、見かけ上、使用量が増加したものと認識しています。

環境保護活動 > 廃棄物削減・リサイクルの促進

PCB管理・処理

contents

NTTグループでは、PCBの保管・処理について、第一に早期に無害化処理を行う、第二にPCBを含む装置を継続して使用する必要がある場合は、使用状況を把握・管理する、という方針を打ち出しています。この方針に基づきPCBの保管に関するガイドラインを制定し、「PCB保管・処理ワーキンググループ」を設置して取り組みを進めています。

2003年度は、PCB廃棄物を保有するグループ企業3社（NTTコムウェア、NTTクオリス、NTT北海道電話帳）が新たに参加し情報を共有したほか、グループのガイドライン遵守、保管しているPCB含有装置の紛失防止のため、管理体制を強化、徹底をしました。PCB廃棄物の保管状況は下記の通りです。

2004年度は、適正処理のための中期計画案を策定するほか、PCB廃棄物の適正管理・撤去を推進し、行政への報告も適正かつ遅延なく実施していく予定です。

NTTコミュニケーションズPCB保有数量

		トランス (個)	高圧コンデンサ (個)	低圧コンデンサ (個)	安定器 (個)	ノンカーボン紙 (kg)
2002	保管量	0(0)	0(0)	6(0)	140(118)	0(0)
	使用量	2(0)	0(0)	54(48)	4,010	0(0)
2003	保管量	0(0)	0(0)	6(0)	140(0)	0(0)
	使用量	2(0)	0(0)	54(0)	4,955	0(0)

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

トップページ▶

環境保護活動 > 廃棄物削減・リサイクルの促進

PCリサイクル

contents

社内で不要になったパソコンを、 NGOを通して学校に寄贈

NTTコミュニケーションズは2003年度に、社内のパソコンを入れ替えるにあたって大量のパソコンが不要になった。このうち、まだ使用できる600台をNGO(非政府組織)の地球環境行動会議(以下、GEA 東京都港区、会長:斎藤 十朗)様に寄贈。GEA様でOS(基本ソフト)をインストールし直した後、国内の小中高校学校等77校に寄贈した。取り組みの背景やNGOとの連携について、各担当者が語る。

ビジネス上での関わりが社会貢献活動に発展

NTT Com環境保護推進室 吉澤伸典:環境保護推進室では、何かNTTコミュニケーションズらしい環境保護活動ができないか、と以前から模索していました。



NTT Com環境保護推進室
吉澤伸典

パソコンを寄贈するきっかけですが、私は全社的にパソコンを入れ替えるにあたって、パソコンのハードディスクに格納されている企業情報を完全に消去して廃棄するため、更改(パソコンの一元管理推進)ワーキンググループに計画初期段階から検討メンバーとして参画していたんですが、ちょうどそのころ、営業担当者からGEA様の活動について聞いたんです。GEA様の活動を通して、学校に寄贈すれば、パソコンを捨てることなく環境負荷を低減するだけでなく、情報格差(デジタルデバイド)解消にも貢献できる。インターネットやITを推進するNTT Comの事業内容にぴったりの活動だと思いました。

営業部では、以前よりGEA様とおつきあいをさせていただいていたんですよね。

NTT Com第二法人営業本部 担当部長 斉藤義男:そうですね。弊社ではかねてからホームページ構築・管理などを通して、GEA様とビジネス上のおつきあいがありました。



NTT Com第二法人営業本部
担当部長 斉藤義男

いろいろとお話をさせていただく中で、現在取り組まれている「ヴァーチャルグローブ」という活動の一環として、パソコンの寄贈を検討されていることを知りました。

それで、環境保護推進室に連絡したのです。持株会社(NTT)の和田紀夫社長がGEAの委員を務めているため、以前から弊社とは関わりの深いNGOだったという経緯もありますね。GEA様、環境保護推進室、そして営業部の三者が非常にうまく連携できたと思います。

NTT Com 吉澤:社会貢献活動にはある目的のためにお金を寄付するという方法もあ

りますが、不要になったものを手間やお金をかけて再び使える状態にして、有効活用してもらったほうが、心がこもっているのではないかと—そうも思いました。友達にお古のパソコンをあげるようなことが企業としてできるのですから。

GEA様を通したパソコンの寄贈は、環境負荷低減・社会貢献活動のたいへんいいモデルになったと自負しています。ところで、GEA様の活動内容とヴァーチャルグローブプロジェクトについて、概要を教えてくださいいただけますか。

途上国のNGOのネットワーク作りに取り組む

GEA参事 桐山聡子様: まずGEAについてですが、政界、財界、学界の著名人をメンバーに、竹下登元首相が発起人となって発足したNGOです。地球環境の保全と持続可能な発展のために、国際会議の開催や政策提言などを行っています。

NTT Com 吉澤: ヴァーチャルグローブプロジェクトとは、どんなプロジェクトでしょうか。

GEA 桐山様: GEAが現在力を入れている活動のひとつで、途上国で地道に環境保護活動を行っているNGOを支援するプロジェクトです。ホームページを使って、各国のNGOからの情報発信やネットワーク作りを行おうと考えていました。



GEA参事 桐山聡子様

2003年2月にヴァーチャルグローブのホームページを立ち上げたのですが、実は、いざ情報発信や交流を行おうとしてみると、草の根で活動する途上国のNGO事務局ではインターネットへの接続環境が整備されていなかったり、パソコンそのものがなかったりして思うように情報発信ができないことがわかりました。

NTT Com 吉澤: それで、パソコンの寄贈を検討されたのですね。

GEA 桐山様: そうなんです。プロジェクトの最初のステップとして、パソコンを寄贈したいと考えました。ところがさまざまな制約があり、今回はNGOへの寄贈は無理なことがわかりました。そこで、国内の小中高校に寄贈して環境教育に活用してもらうことにしました。

NTT Com 吉澤: パソコンの寄贈先はどのように探したのでしょうか。

GEA参事 佐藤隆子様: インターネットで募集したり、GEAの委員に紹介してもらったりしました。



GEA参事 佐藤隆子様

まだパソコンが数台しかない学校も多く、国内でもまだまだニーズがあることがわかりました。どの学校にどの機種を何台寄贈するか、という振り分けやOSの入手、輸送費用の確保などさまざまな課題があり、パソコンを1台寄贈するのがどれほど大変かということを実感しましたね。OSはマイクロソフト社のご協力でライセンスを無償提供していただき、足りない分はGEAで購入して各校に送りました。

NTT Com 吉澤: いろいろとご苦労があったんですね。寄贈先からの反響はどうでしたか。

GEA 佐藤様: 全国の寄贈先の学校から多くの感謝の声が寄せられていますよ。さまざまな苦労はありましたが、環境教育にも活用していただいているようなので、パソコンの寄贈を行って本当によかったと思っています。今後は、当初の目的であった途上国のNGOにも寄贈先を広げていきたいです。

それぞれの活動を促進するためパートナーシップの強化を

GEA 桐山様: 中古パソコンへのニーズは国内外でまだまだありそうですので、今回の取り組みを機に、今後も連携を強化していけたらと思います。ヴァーチャルグローブプロジェクトをはじめ、環境保全活動へのIT活用法などについても、いろいろと知恵を貸していただけるとありがたいです。

NTT Com 斉藤: 弊社のサービスによって、より広いコミュニケーションの拡大が期待できると思います。たとえばテレビ電話、会議のようなこともインターネットを使えば簡単に世界中でできます。GEA様の人と人との和の拡大に、今後ともお手伝いさせていただきます。

NTT Com 吉澤: 中古パソコン寄贈プログラムについては、グループ会社や弊社のお客様さま等に、取り組みへの参加を呼びかけることなども検討していきたいですね。

NTT Com環境保護推進室 宅間由美子: そうですね。それから、これを機会にGEAの皆さまにひとつお願いしたいことがあります。



NTT Com環境保護推進室
宅間由美子

弊社では事業活動にともなう環境負荷の低減やITを活用した社会の環境負荷低減などに取り組んでいます。自分たちなりに一生懸命取り組んでいるつもりですが、これで十分なのか、それとももっと他にできることがあるのか、内部の人間には見えなくなってしまう面があります。そこで今後は、私たちの取り組みについても、環境NGOの視点からいろいろなご指摘や助言をいただければありがたいと考えていますので、ぜひよろしくお願いいたします。

GEA 佐藤様: 了解しました。こちらこそ今後ともよろしく願いたします。



企業とNGOが手を取ることでいろいろな解決策が見出していくことができると実感したミーティングでした。

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

[トップページ](#)

環境保護活動 > 廃棄物削減・リサイクルの促進

グリーン購買



contents

当社では、1999年9月に制定された「NTTコミュニケーションズグリーン購買ガイドライン」に基づき、環境負荷の少ない製品の購買に努めてきました。

今年度は、より積極的なグリーン購買体制の構築を目指し、2005年度の適用を目的に新たなガイドラインの策定を進めています。

新しく策定するガイドラインは、従来の環境配慮のための協力依頼型の内容から、お取引先を選定させていただく際の評価条件となる必須評価項目等を盛り込み、購買活動における環境負荷をより一層削減することを目指す内容になります。

必須評価項目とは、お取引先の皆様に弊社の環境保全のための取組み趣旨をご理解いただき、最低限クリアしていただきたい項目になります。

具体的には、環境マネジメントシステムの構築やグリーン購買の推進等の体制を評価させていただくことを考えています。

従来、お取引先や製品の選定時に環境配慮に関する評価は実施していませんでしたが、今後はお取引先の選定条件に環境配慮に関する項目を加えていきます。

現在、新ガイドライン作成及び購買手続きの検討を行うと共に、お取引先の環境配慮に対する評価アンケートなどを実施し評価基準を定め、各お取引先の評価を進めています。

新たなガイドラインの適用により、今まで以上に環境に配慮した購買を推進していくとともに、お取引先と一体となった環境保全活動を進めてまいります。

[地球環境保護活動2004トップ](#)

[このページのトップ](#)

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

トップページ▶

環境保護活動

人と人をつなぐ情報流通サービス

contents

CoDenでコミュニケーションを促進し 人々の生活を豊かに

コンシューマ&オフィス事業部 小笠原 賀子



遠距離恋愛の二人は、一日の出来事をインターネット上の写真付き交換日記で報告しあい、若い母親は、初めて一人で歩いた子どもの写真をデジカメで撮ってネット上にアップロード。父親はその写真を携帯電話にダウンロードして、子どもの成長を見守る。そんな近未来的なコミュニケーションのやり方が、CoDen(コデン)のサービス利用者の間ではすでに始まっている。CoDenの開発意図や、サービスを通じたNTTコミュニケーションズのビジョンの実現について、開発担当者であるコンシューマ&オフィス事業部・IPサービス部主査の小笠原賀子が語る。

仲間同士で情報を簡単に共有・交換できる

—CoDenとはどんなサービスでしょうか。

小笠原 NTTコミュニケーションズが提供する、ITを活用した個人向けサービスの総称です。現在CoDenには、cocoa(ココア)やドットフォンパーソナルVなどのサービスがあります。

私が開発を担当しているcocoaは家族や友人との情報共有や情報交換を便利にするサービスです。デジカメ写真やケータイ動画を整理・保存・共有できる『フォトアルバム』に家族や仲間同士のコミュニケーションをさらに便利にする『ダイアリー』や『スケジュール』といった機能などを揃え、パソコンと携帯電話のいずれからも利用できます。なお、cocoaのページ内にはグループとして登録したユーザーしかアクセスできませんから、家族や仲間同士だけにとどめたいプライベートな情報や個人情報が流出する恐れはありません。ドットフォンパーソナルVは、パソコンを利用してテレビ電話が可能となるサービスです。

—cocoaは便利なサービスのようですが、例えばどんなふうにご利用されていますか。

小笠原 ユーザーによって利用方法は千差万別ですが、写真の共有に利用するケースが多いようです。運動会や飲み会などイベント時に撮影した写真をcocoaにアップして、参加した人が好きな写真をダウンロードして利用するようなケースです。また、若い女性の間では交換日記として、小さな子どもを持つお母さんでは育児日記や育児情報交換の場としての利用も多いですね。cocoaを使ってスケジュールを共有、調整に活用する家族やカップルもいますよ。この他、例えば生け花サークルで、先生の作例や展

示会での模様をアップしてサークルの時間以外でも情報を共有しあうような利用の仕方もあるようです。

ITも家庭向けから個人向けサービスの時代に



CoDenを通じて心豊かな社会を実現できたら—と熱く語る小笠原氏

—CoDenというサービスを開発した理由を教えてください。

小笠原 従来は、電話サービスに代表されるように、1家庭をひとつのユーザとして提供する通信サービスが多かったですよね。ところが近年、固定電話から携帯電話への移行が進んできて、サービス自体も家庭での利用から各個人の利用に移りつつあります。そこでNTTコミュニケーションズとしても、ITを活用した個人向けサービスを提供したいと考えました。ビジネスユーザー向けには、ウェブ上でのデータ保管、共有、交換などのサービスを以前から提供していましたので、このノウハウを活用して、個人向けのサービスを開発しました。

IT分野のサービスは、これまでは技術が先行し、技術に合わせてサービスが開発されている傾向がありました。これに対してCoDenでは、ユーザーの利用場面を先に想定し、「こんなサービスがあったら便利だろう」と思える機能を揃えていこうとしています。生活に密着した機能を備えることで、これまでITをあまり活用できていなかった方々にも利用しやすいよう工夫しています。

コミュニケーションを活性化して、心豊かな社会の実現に貢献したい

—CoDenに期待することは何ですか。

小笠原 CoDenは文字、画像、音声、動画などさまざまな方法でのコミュニケーションを可能にします。また、時間や空間の制約を超えて他の人とつながることもできるようになります。CoDenを通してコミュニケーションを頻繁に、そして豊かにすることで対話の機会を増やし、人々がもっと理解しあえるようになればいいと思います。NTTコミュニケーションズは、世界中の人々のコミュニケーションをサポートすることを通じて、心豊かで永続的な社会の実現に貢献することをビジョンとして掲げています。大げさなようですが、CoDenもそのひとつの手段となると思っています。

—今後、CoDenのサービスはさらに充実していくのでしょうか。

小笠原 はい。現在ある機能がもっと使いやすいくなるよう、お客さまの声に基づき日々改善に努めるのはもちろんのこと、新しい機能もどんどん追加していきたいと考えています。9月からはcocoa上にアップした写真やファイルをコンビニのコピー機で手軽に印刷できるようになりました。今後も、ブログ(web-log: 時系列で並べられた記事とそれに関するコメントが定期的に更新されるようなサイトのこと)など他のサービスとの連携や携帯電話からの利用がより便利になるような機能の提供も予定しています。また個人的な意見ですが、CoDenを利用した社会貢献などもできたらいいな、と思っています。例えば、ユーザーが1回ログインするごとに木を1本植える—そんな仕組みが作れたらいいですね。



cocoa開発チームの皆さん

環境マネジメント 環境保護推進の体制



当社では、課題別に関連する組織の専門家集団からなるワーキンググループを作り、全社一丸となって環境問題に取り組んでいます。

また、これらのワーキンググループは、NTTグループ各社の専門家集団で構成される各種の課題別委員会とも連携を図り、NTTグループ全体としての環境負荷低減に向けた活動を行っています。

課題別ワーキンググループによる活動

ワーキンググループ名	主な取り組み項目
温室効果ガス削減 ワーキンググループ	トータルパワー改革運動(電力使用量削減運動)の促進(1990年レベルで安定化を図る)。
撤去通信設備 ワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> 撤去通信設備に関する法的適正処理、管理の徹底。 アスベストの撤去・更改の進捗管理の徹底。
建設廃棄物 ワーキンググループ	建設工事から排出される産業廃棄物の適正処理及びリサイクルの推進。
PCB保管・処理 ワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> PCB(ポリ塩化ビフェニール)の適正保管、計画的な分解処理を実施。 PCB管理状況に関する行政報告の取りまとめ。
オフィス廃棄物 ワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> オフィス廃棄物の法的適正処理、管理の徹底。 分別収集の徹底。 事務用紙節減活動(紙節減・再生紙/電子媒体利用の促進)。
お客様廃棄物 ワーキンググループ	お客様からの受託工事時に発生する産業廃棄物の適正処理、管理の徹底。
容器包装リサイクル ワーキンググループ	「容器包装リサイクル法」への適正な対応。
グリーン購買 ワーキンググループ	全社的グリーン購買の推進。
環境会計 ワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> 2002年度から環境会計を導入。 経営に資する環境会計の構築に向けた検討。
環境保護に関連した 社会貢献活動	名刺のケナフ化実施。(森林保護の立場から、社員の名刺素材に非木材(ケナフ100%)を使用することを推奨)。

環境保護推進室

contents

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

トップページ▶

環境マネジメント > 計画と取り組み
中長期計画



当社は、長期環境ビジョンを策定し、それを具体的に実現するために、中長期計画を策定しました。

当社は、通信技術やIT技術を活用し、他の企業や行政、教育機関、NGO/NPOの皆様と連携しながら『地球にやさしい施策』や『人にやさしい施策』を1つ1つ実現していきます。

<社外に対する施策>



<社内に対する施策>

項目	施策	目標年度
	・従業員教育体制の整備。自然保護学習、フィールド研	

環境教育の推進	修の実施など。	順次実施
各種の資格取得制度	・環境に関する資格取得の支援。	
環境保護対策		
紙資源対策	・事務用紙における純正パルプの使用量を2003年度レベルから半減	2010
オフィス廃棄物	・リサイクル率の向上:45%	2005
撤去通信設備	・リサイクル率の向上:98%	2010
建築廃棄物	・最終処分場への持込ゼロ化 ・再資源化率の高い業者への委託推進 [特定資材:98%、その他(汚泥を除く):62%]	2005
	[特定資材:99%、その他(汚泥を除く):84%]	2010
温暖化対策	・空調装置の改善、更改 ・非効率設備の更改 ・受電装置の改善 ・省エネ&クリーンエネルギーシステムの導入 (電力貯蔵システム、燃料電池システム、風力・太陽光発電システム等)	当社の重要な施策として認識し、現在原単位での目標値を検討中

[地球環境保護活動2004トップ](#)

[このページのトップ](#)

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

トップページ▶

環境マネジメント > 計画と取り組み

ISO14001 認証取得状況と環境監査、法規制の遵守

contents

ISO14001環境マネジメントシステムの取組み

当社は、環境経営を推進するにあたり、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証取得を進めています。

まず、物品の調達から廃棄・リサイクルにいたるまで一貫して環境への影響を低減させるため、1999年10月、ネットワーク事業部企画部資材部門（現 プロキュアメント統括室）において「ISO14001」の認証を取得しました。グリーン購買の推進、紙資源・電力使用量の削減、撤去通信設備の処理コストの低減を目的とした環境保護活動に取り組んでおります。

2004年3月には、ソリューション事業部ITビジネス推進部（現 システムエンジニアリング部）でISO14001の認証を取得しました。今後も各事業部などにおいて、各自の業務に環境保全活動を取り込んだ改善を進めていきます。

●ISO14001取得状況

- | | |
|----------|---|
| 1999年10月 | ネットワーク事業部企画部資材部門
（現 プロキュアメント統括室（森ビル）*）（2005年1月17日より神保町三井ビルディングビルに移転） |
| 2004年3月 | ソリューション事業部ITビジネス推進部
（現 システムエンジニアリング部（西新橋ビル、竹橋ビル）*） |

環境監査

環境マネジメントを適切に運用かつ継続的に行い、事業活動に伴う環境負荷を低減するため、内部環境監査を毎年1回実施しています。以下に、プロキュアメント統括室および システムエンジニアリング部 における環境監査実施内容をご紹介します。

プロキュアメント統括室

■内部環境監査

実施日：2004年7月30日

2004年度の内部環境監査においては、監査内容及び監査能力のいっそうの向上を図り、外部機関の環境コンサルタントを主任内部環境監査員とし、また外部部署における環境審査員補資格取得者を環境監査員とした監査チームを構成し、より客観的で充実した内部環境監査を実施いたしました。環境側面を特定する手順、適用される法律についての社内的な取組みについてやや不十分な点がありましたが、今後はこれらを改善し、より明確な取組みを実現していきます。

以下に監査結果を踏まえた今後の課題および評価して頂いた点をご報告します。

今後の課題

- ・ 環境側面を特定する手順をより明確にすること
- ・ 適用される法律についての社内的取組みとその評価方法を明確にすること

評価事項

- ・ 核となる要員の育成に力を注いでいる
- ・ 全要員に対して、EMS研修だけでなく、一般的な環境問題を取り上げ、環境保護活動への意識を高めている
- ・ 紙、ごみ、電気のマネジメントプログラムについて、継続的な取組みとして定着が図られている

■外部審査機関による監査

実施予定日：2004年10月14日

外部審査機関の監査による透明性のあるシステムにより改善すべく外部監査を毎年1回実施しています。今年度の審査結果については実施後にお知らせ致します。

システムエンジニアリング部

■内部環境監査

実施日：2004年1月16日

・書類審査

環境マネジメントマニュアルの内容を規格要求事項に照らし合わせてより分かりやすく訂正するなど11件の観察事項がありました。→2004年2月に内部環境監査員によるフォローアップは完了しています。

・実地審査

「数値化可能な目標は数値化するように」などの観察事項が19件ありました。→2004年2月に内部環境監査員によるフォローアップは完了しています。

■外部審査機関による監査

実施日：2004年2月9～10日（一次審査）、2004年3月11～12日（二次審査）

・一次審査（書類審査）

環境マネジメントマニュアルの記述に関し、「運用管理に必要な関連手順書への道筋を明確にする」など、2件の観察事項がありました。→2004年3月11日の二次審査にて審査員によるフォローアップは完了しています。

・二次審査（実地審査）

1件の観察事項（「計画目標に関して、当月未実施のため検証欄で翌月以降に計画目標を変更する場合には、変更した計画目標の計画日付を『検証により計画目標を見直した日付』に変更する。」）がありました。→2005年の次回受審時に審査員によるフォローアップが予定されています。

法規制の遵守

当社では、NTTグループ各社との連携による課題別ワーキンググループを中心に、環境法令や排出基準、PRTR法*など、あらゆる法規制を考慮して周知徹底するほか、自主的に社内ガイドラインを設け、法規制を遵守しています。

2003年度は、環境関連の事故、違反、罰金、苦情など、これらに関わる訴訟または法令違反はありませんでした。

*プロキュアメント統括室は、旧資材部門の新組織名です。
所在地は以下のとおりです。
東京都千代田区神田神保町1-105(2005年1月17日より移転)

*システムエンジニアリング部は旧ソリューション事業部ITビジネス推進部の新組織名です。
所在地は以下のとおりです。
東京都港区西新橋2-14-1 西新橋ビルB棟
東京都千代田区一ツ橋1-2-2 住友商事竹橋ビル

*PRTR法
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律の略称

 [地球環境保護活動2004トップ](#)

[このページのトップ](#) 

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

[トップページ](#)

環境マネジメント > 計画と取り組み 環境教育



contents

当社では、これまで実施してきた環境法改定に伴う社内勉強会に加え、本年度、新たに「長期環境ビジョン策定プロジェクト」を立ち上げ、日頃環境保護関連の業務に携わっている社員及び公募で募った環境保護活動に興味のある社員と世界の現状や将来について想像し、当社として出来ることは何かを考えること等を通じて、多方面の社員の環境マインドを高めました。

今後は、上記プロジェクトの模様やプロジェクトで策定したビジョンをイントラネットを通じて公開し、より多くの社員の環境マインドを高めていきたいと考えています。また、環境問題に対する認識のレベルアップを社内に普及させ、管理職をも含めた教育体制、研修などを組織的に推進していくことを検討していきます。



[地球環境保護活動2004トップ](#)

[このページのトップ](#)

環境マネジメント 環境会計



NTTコミュニケーションズ単体の環境会計を実施しています。2003年度の結果は、下記の通りでした。環境保全コストについては、投資総額が約2億8300万円、費用総額が約5億300万円で、環境コスト総額は約7億8600万円となりました。これは前年度に比べると約5億7500万円の減少で、理由はコジェネ設備・空調設備のメンテナンス費用の減少によるものです。

一方、環境保全効果では、電力使用量削減や設備の再利用による新規購入費の削減、インターネットを利用した料金請求(WebBilling)による請求書送付費用の削減などにより、大きな効果があがりました。

環境保全コスト

集計期間:2003年4月1日~2004年3月31日

集計範囲:NTTコミュニケーションズ 本社

集計および開示の方法:環境保全コストは、投資と費用に分けて集計しました。なお、費用に人件費を含みますが、減価償却費は含んでいません。

投資額

(単位:百万円)

項目	(1) 2001年 度	(2) 2002年 度	(3) 2003年 度	増減額		主な増減内容 <(5)に対する>
				(4)=(2)- (1)	(5)=(3)- (2)	
地球環境保全コスト	228.5	192.6	283.0	-35.9	90.4	・コジェネ装置取得の減少 ▲193 ・外気冷房装置の増加 277

費用額

(単位:百万円)

項目	(1) 2001年 度	(2) 2002年 度	(3) 2003年 度	増減額		主な増減内容 <(5)に対する>
				(4)=(2)- (1)	(5)=(3)- (2)	
公害防止コスト	2.5	0.2	95.0	▲2.3	94.8	アスベスト撤去・処分費用の増加 95
地球環境保全コスト	400.7	663.5	103.8	262.8	▲559.7	コジェネ設備・通信機械室用空調調節装置のメンテナンス費用の減少 ▲559
資源循環コスト	557.4	476.7	288.0	▲80.7	▲188.7	建設工事および撤去通信設備廃棄物の処理委託の減少 ▲187
上・下流コスト	0.7	4.5	1.8	3.8	▲2.7	各種活動に伴う人件費の減少 ▲3
管理活動コスト	51.1	22.1	11.3	▲29.0	▲10.8	各種活動に伴う人件費の減少 ▲8
社会活動コスト	0.0	0.0	3.9	0.0	3.9	PC寄付活動に伴う増加 3.9

NTTコミュニケーションズ
地球環境保護活動
2004

[トップページ▶](#)

環境保護活動
沿革



| 2003年度 | 2002年度 | 2001年度 | 2000年度 | 1999年度 |

2004年度

- 2月17日 **第9回「NTTコミュニケーションズ地球環境保護推進委員会」を開催**
- 12月11日 **日経「環境経営度調査」通信・サービス部門8位にランキング**
日本経済新聞社主催 第8回「環境経営度調査」の「通信・サービス」部門において8位にランキングしました。今後も環境教育の充実化や長期目標を明確にしていく等、環境経営に積極的に取り組んでいく予定です。
- 11月中旬 **「社員の環境意識調査」を実施**
海外現地法人を含むNTT Comグループ会社全体の社員に対し、環境意識レベルの調査を実施しました。結果は次年度以降の活動に反映する予定です。
- 8月下旬 **「長期環境ビジョン策定プロジェクト」を立ち上げ**
日頃環境保護関連の業務に携わっている社員及び、公募で募った環境保護活動に興味のある社員で検討ワーキンググループを立ち上げました。世界の現状や将来について議論し、当社として出来ることは何かを考え、長期ビジョンを策定しました。長期環境ビジョンのページをご覧ください。
- 7月27日 **第8回「NTTコミュニケーションズ地球環境保護推進委員会」を開催**

2003年度

[このページのトップ↑](#)

- 3月25日 **ISO14001認証を取得**
ソリューション事業部ITビジネス推進部においてISO14001認証を取得しました。
- 2月23日 **第7回「NTTコミュニケーションズ地球環境保護推進委員会」を開催**
- 12月22日 **「リサイクルPC」の寄贈**
社内で不要になったリサイクルPC550台をNGO団体(GEA:地球環境行動会議)を通じて、全国76校へ寄付しました。

contents

- 12月10日 **日経「環境経営度調査」非製造業部門
48位にランキング**
日本経済新聞社主催 第7回「環境経営度調査」で非製造業部門において48位、業種別「通信・サービス」部門において7位にランキングしました。
- 10月中旬 **「社員の環境意識調査」を実施**
海外現地法人を含むNTT Comグループ会社全体の社員に対し、環境意識レベルの調査を実施しました。結果は次年度以降の活動に反映する予定です。
- 10月1日 **「リサイクルPC寄贈の式典」に参加**
「改正リサイクル法」施行日に開催された、愛媛県内子町主催のPC寄贈式典において、社内で不要となったPCをNGO団体(GEA:地球環境行動会議)を通じて、小中高等学校へ寄付しました。
- 7月29日 **全社的に「PC、サーバのリユース促進活動」を開始**
社内で不要になったPCやサーバは極力リユースするという全社方針を策定し、社内に展開しました。
なお、リユースにあたっては、機密情報漏洩防止のため、ハードディスクデータを完全に消去する等、セキュリティの徹底も図っています。
- 7月8日 **第6回「NTTコミュニケーションズ地球環境保護推進委員会」を開催**

2002年度

[このページのトップ](#) 

- 6月27日 **第5回「NTTコミュニケーションズ地球環境保護推進委員会」を開催**
- 3月25日 **電子調達マーケットプレイス「.comCo-Buy(ドットコムコーバイ)」でのグリーン購入ラベル表示を開始**
インターネット上で企業間の商取引を実現するサービス「.comCo-Buy」において、電子カタログ上に掲載されている環境対応商品に対してグリーン購入ラベルを表示するサービスを開始しました。この取り組みを通じて、商取引を行う際に環境保護に対する意識を喚起すると共に、積極的に企業のグリーン購入をサポートしています。
[▶ .comCo-Buy](#)

2001年度

[このページのトップ](#) 

- 7月9日 **WebBilling(ウェブビルディング)の開始**
お客様に対する、電話料金のご請求内訳・ご請求金額などをWebサイトや電子メールを活用し、ペーパーレスでお知らせするサービスの提供を開始しました。
[▶ WebBilling](#)
- 7月3日 **第4回「NTTコミュニケーションズ地球環境保護推進委員会」を開催**
- 5月1日 **車両運行情報提供サービス「e-Transit(イー・トランジット)」を開始**
特集記事をご覧ください。
[▶ e-Transit](#)

2000年度

[このページのトップ](#) 

- 10月3日 **第3回「NTTコミュニケーションズ地球環境保護推進委員会」を開催**
- 5月19日 **環境セルフチェックを開始**
NTTコミュニケーションズの地球環境憲章に基づき環境関連法の規制遵守を徹底するため、定期的に全組織においてセルフチェックを実施し、環境問題に対する意識の向上を図っています。
- 3月8日 **第2回「NTTコミュニケーションズ地球環境保護推進委員会」を開催**
各WGによる活動の総括と、今後の重点課題の取り組みを決定しました。
- 1月24日 **ケナフ名刺の導入を開始**
森林保護の立場から、社員の名刺素材にケナフ100%の非木材紙の使用を開始しました。

1999年度

[このページのトップ](#) ↑

- 10月28日 **ISO14001認証を取得**
資材部門においてISO14001認証を取得しました。
- 9月3日 **第1回「NTTコミュニケーションズ地球環境保護推進委員会」を開催**
NTTコミュニケーションズの環境保護推進体制を確立し、地球環境保護に対し、全社的に取り組むことを確認しました。
- 7月1日 **NTTコミュニケーションズ(株)が発足
環境保護推進室が発足
「NTTコミュニケーションズ地球環境憲章」を制定**
NTTコミュニケーションズの発足と同時に、環境保護活動を積極的に推進する機関として「環境保護推進室」が発足し、活動を開始しました。
さらに、環境保護活動の指針として「NTTコミュニケーションズ地球環境憲章」を制定しました。

▶ [地球環境憲章](#)

[地球環境保護活動2004トップ](#)

[このページのトップ](#) ↑